

- 昭和49年7月の七夕豪雨災害から50年の節目となる機会に、流域治水シンポジウムを開催しました。
- 小和田哲男静岡大学名誉教授、気象予報士の伊藤麻衣氏による基調講演
- 静岡県から「七夕豪雨災害の記憶とその後の河川行政の取組」、「これからの水災害対策について」を発表し、流域のあらゆる関係者による「流域治水」の推進と「水災害の自分事化」を図りました。

日時：令和6年7月6日（土）13：00～15：40
場所：静岡県コンベンションアーツセンター
“グランシップ” 会議ホール・風

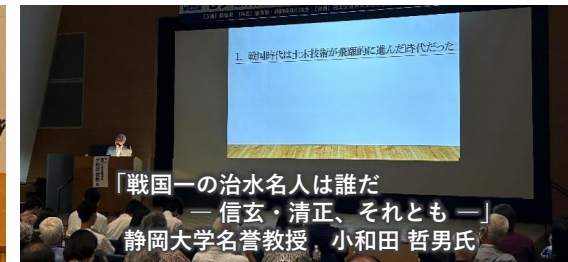


参加者：310人

基調講演



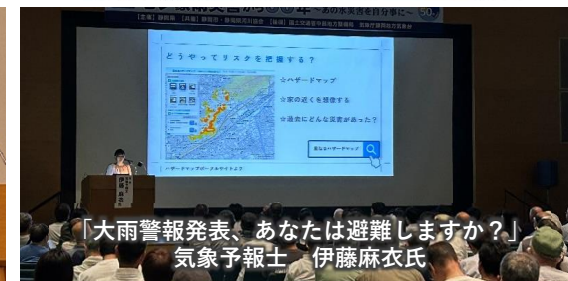
講師
小和田
静岡大学
名誉教授



「戦国一の治水名人は誰だ
— 信玄・清正、それとも —
静岡大学名誉教授、小和田 哲男氏



講師
伊藤
気象予報
士



「大雨警報発表、あなたは避難しますか？」
気象予報士 伊藤麻衣氏

河川行政の取組発表



静岡県交通基盤部
河川砂防局
局長 山田 真史



「水災害に対するこれからの取組」

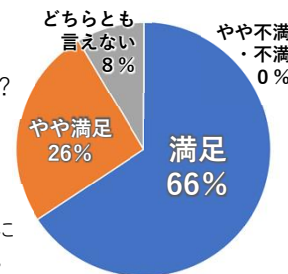
展示ブース

- 国土交通省中部地方整備局
- 気象庁静岡地方気象台
- 静岡県
- 静岡市
- 静岡市あさはた緑地交流広場指定管理者
- 麻機遊水地保全活用推進協議会
- 静岡北中学校・高等学校



アンケート

Q：シンポジウムの満足度は？

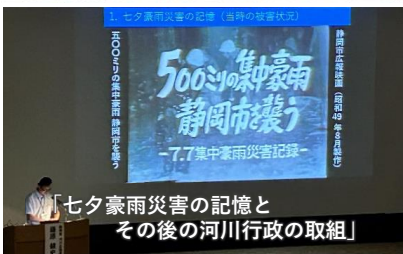


Q：今回のシンポジウムで七夕豪雨災害などの水災害を知り、何か行動につなげようと思いますか。

回答数	選択回答
27	自分が住む場所にどのような水災害リスクがあるか確認する。
25	ハザードマップで避難先、避難経路を確認する。
17	防災グッズや備蓄材を充実させる。
5	地域の避難訓練に参加する。
1	水災害リスクのない場所への移転を検討する。
1	自宅に雨水貯留タンクを設置する。
1	特に何もしない。
1	その他



静岡県交通基盤部
河川砂防局河川企画課
班長 藤原 健史



七夕豪雨災害の記憶と
その後の河川行政の取組」